

LGBT に対する一連の記事等への見解

公益社団法人日本社会福祉士会は、人々の尊厳を尊重し、住み慣れた地域の中で安心して共に暮らせる社会の実現に努めることを憲章で定めている、都道府県社会福祉士会を会員とする専門職団体です。

私たちは、倫理綱領において「すべての人間を、出自、人種、性別、年齢、身体的精神的状況、宗教的文化的背景、社会的地位、経済状況等の違いにかかわらず、かけがえのない存在として尊重する」ことを宣言し、差別、抑圧、排除などの無い、共生に基づく社会正義の実現をめざしています。

また、私たちが加盟している国際ソーシャルワーカー連盟は、2014年のメルボルン総会で採択した「性的指向とジェンダー表現」において、LGBT当事者はライフサイクルのすべての段階で、あらゆる形態の差別から保護されなければならないとしています。具体的には、職場での差別、学校でのいじめなどに公的に対応することや、ヘルスケアサービスの提供が必要としています。

株式会社新潮社が発行した「新潮 45」2018年8月号の杉田水脈衆議院議員の「『LGBT』支援の度が過ぎる」を契機として、10月号の「特別企画 そんなにかおしいか『杉田水脈』論文」という特集等によって、LGBTに関して社会的な反響の広がりを見せています。これらの一連の記事等は、誤った認識や誤解を生み、それが社会全体に広がり、LGBT当事者に対する差別や偏見を生むだけではなく、さらに、社会的孤立や社会的排除を助長するものであると危惧しています。

私たちは、LGBTを始め、あらゆる人々に対する差別や偏見をなくすことにより、人々が暮らすそれぞれのコミュニティにおいて、基本的人権が尊重される公正・公平な社会の実現を目指し、これからも実践や活動をしていきます。

2018年10月4日

公益社団法人日本社会福祉士会

会長 西島 善久